

## ABC再算定の魚種別の実施方法

魚種名（系群）：まさば及びごまさば（太平洋系群）

### 1 ABC算定とTAC設定

さば類太平洋系群の資源評価については、卓越年級群の発生等により加入量推定における不確実性が高いことから、新たに入手されたデータを用いて不確実性を低下させた資源評価に基づきTACの設定・改定を行うことができるよう、次の方法で当初TAC設定及び期中改定のためのABCを算定する。

#### (1) 当初TAC設定（5月頃）

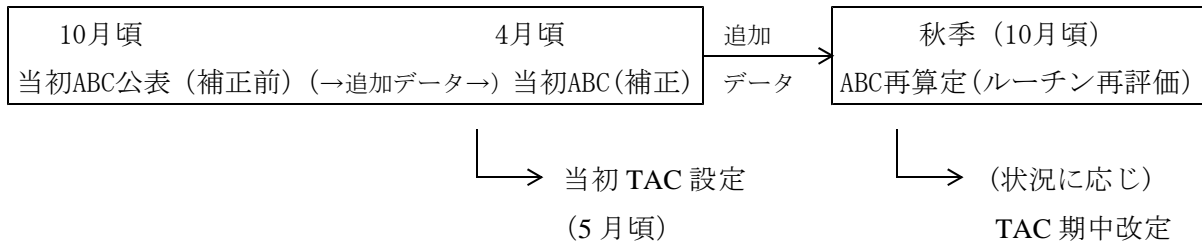
前年秋季に公表されたABCを、以後得られたデータにより4月頃に補正する（「当初ABC補正」という）。

#### (2) TAC期中改定（必要に応じて実施）

当初TAC設定に用いた当初ABC（補正）に、その後得られたデータを追加してABCの再算定を行う。

これは、秋季のルーチン評価作業の一貫として行う（漁期開始後、直近までのデータを活用するため、作業の時期を従来より遅い時期に変更する）。

(ABC算定とTAC設定との関係)



### 2 ABC算定の方法及び実施体制

#### (1) 当初ABC

##### ① 秋季公表値（補正前）

ルーチン作業による毎年度の資源評価の一環として、従来の計算手法・検討体制を基本にし、さらにTAC管理期間の切り替わり以降直近までのデータを活用して算定する。

○データの種類・期間：

漁獲量：各県水産試験研究機関（以降、関係機関）等が集計する前年7月～当年6月のデータを追加し、さらに当年7月以降直近までのデータを活用する。

努力量：北部まき網等漁業団体が整備する努力量データやJAFIC集計の努力量データ等の直近までのデータ。（精度検証のため、将来的に漁獲成績報告書等を活用することも検討（マサ

バ・ゴマサバの比率等は得られないが、FRESCO（資源評価調査事業で得られたデータのデータベース）登録データ等との比較検討により活用）する。）

漁場：JAFIC集計のCPUEデータ等の直近までのデータ。（精度検証のため、将来的に漁獲成績報告書等を活用（マサバ・ゴマサバの比率等が得られないが、FRESCO登録データ等との比較検討により活用）することも検討している。）

漁獲物のサイズ：関係機関等により収集された前年7月～当年6月のデータを追加し、さらに当年7月以降のデータを活用する。

体長年齢関係：中央水産研究所等で、鱗相解析や体長組成解析等により得られる体長年齢関係のデータ

漁況見通し：当年7月の漁海況予報会議で関係機関等により合意される漁況見通し

調査船調査結果：当該漁期年の加入群の資源量指数として、5～7月に中央水研・東北水研が実施の調査船調査結果を参考にする。

#### ○算定手法

前年度までの資源評価手法を踏襲しつつ、直近までのデータを含めた解析手法については継続的に精査し、外部委員や関係機関との協議により確定させる。

### ②4月補正

秋季算定の方法を基本に、それ以降追加されたデータを活用し、ABC値を補正する。具体的には、秋季算定に用いたデータに、直近まで年齢別漁獲尾数、調査船調査情報、漁獲努力に関わる指数等を活用して算定する。

#### ○秋季算定以降追加されるデータの種類・期間：

漁獲量：関係機関が集計する当年2月までのデータ

（前年の漁獲成績報告書等が年明け以降早い段階で収集整備されていれば、FRESCO登録データ等との比較検討の上、今後活用できる可能性がある。）

努力量：北部まき網等漁業団体が整備する努力量データやJAFIC集計の努力量データ等の直近までのデータ

漁場：北部まき網等漁業団体が整備する漁場データやJAFIC集計のCPUEデータ等の直近までのデータ

漁獲物のサイズ：関係機関が集計する当年2月までのデータ

体長年齢関係：中央水産研究所等で、鱗相解析や体長組成分析等により得られる体長年齢関係のデータ

漁況見通し：12月の漁海況予報会議で関係機関等により合意される漁況見通し

#### ○算定手法

コホート計算による過去年の資源量推定方法は、秋季算定方法を基本とする。

当該漁期年について仮定していた漁獲圧や漁獲尾数について、直近までの確定値（速報値）を用いて補正する。

## （2）ABC再算定

ルーチン作業による毎年度の資源評価（次漁期のABC算定）の一環として、当漁期のABCについて再算定（ルーチン再評価）を実施する。当漁期の当初ABCの算定方法を基本に、それ以降直近までに得られたデータを用い、ABCを再算定する。

### ○データの種類・期間：

ルーチン作業の一環なので、データの種類・期間は、当初ABCの秋季公表値算定のために用いるものと同じ。当年度更新されたデータ、特に前年度・当年度の加入量や漁獲係数について詳細に検討することにより、ABCの再算定を行う。ルーチン評価以降、当該漁期年の加入群の資源量指数として、中央水研実施の調査船調査（9～10月、2月）、茨城水試算定の未成漁越冬群指数等を参考にす

## 3 作業の流れ

### 【7月】 中央ブロック長期漁海況予報会議（第1回）（中央水研主催）

- ・4～6月の漁況、5～7月の調査船調査情報をふまえ、各県水産試験研究機関（以降、関係機関）と資源状況について協議

### 【8～9月】 内部検討会（水研センター主催）及び中央ブロック資源評価会議 （中央水研主催）

- ・7月以降直近までの漁況も考慮して、当初ABC（補正前）及びABC再算定を実施
- ・関係漁業者と資源状況・資源評価結果について説明・意見交換

### 【10月】 全国資源評価会議（水産庁主催）

- ・当初ABCについて、次年度TACが設定される直前の4月に新たなデータを追加して補正することを報告。また、その際に全国資源評価会議や個別の魚種に対するパブコメは行わないが、外部委員、関係水産試験場、業界との意見交換を行う旨を確認。

（11月 状況に応じ、ABC再算定値を基に、水産政策審議会にTAC期中改定を諮問）

### 【12月】 中央ブロック長期漁海況予報会議（第2回）（中央水研主催）

- ・直近までの漁場形成等を踏まえ、当初資源評価における年級群別資源量等と実際の資源状況とを関係機関と比較・検討。

### 【2～3月】 中央ブロック長期漁海況予報（第3回）

- ・中央水研は、関係機関に依頼し、12月の漁海況予報会議以降のデータ（12月～2月）を収集（会議招集せず、メールやネット会議等を利用）。

- ・中央水研は、約2週間～1ヶ月程度の期間（3月の漁況予報作成のスケジュールの中）で資源評価を補正。
- ・当初ABC（補正）の算定結果について外部委員や関係機関と意見交換（水研センター主催）

（以後、関係漁業者に資源状況・資源評価結果を説明・意見交換、サバ類TAC設定に関する公開意見交換会、パブコメを経て、水産政策審議会に当初TAC案を諮問）